

自己評価報告書

平成23年5月30日現在

機関番号：32683

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2011年度

課題番号：20730355

研究課題名(和文) インド・アッサム州における先住民族運動—ボド領域自治県発足を中心に

研究課題名(英文) Indigenous Rights Movement in Assam, India: A Case Study of Bodo Movement and Formation of Territorial Autonomous Council

研究代表者 木村 真希子

(KIMURA, MAKIKO)

研究者番号：90468835

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：国際社会・エスニシティ

1. 研究計画の概要

課題(1)ボド民族自治運動の概観と特徴

本研究ではボド民族自治権運動の性格や各団体間の関係を整理し、ボド民族自治運動がインド北東部の政治や他の民族運動の中でどのように位置づけることができるのか、確認する。

課題(2)ボド運動と関係する民族衝突の事例研究

1990年代半ばにはボドの武装組織によるサンタルやムスリムなど、他民族の一般市民への襲撃事件が相次いだ。本研究では襲撃事件に関わる武装組織その他の運動体と、ボド協定や自治をめぐる政治的な動きを中心とした詳細な事例研究を行う。

課題(3) 運動・紛争対策としての北東部における民族自治政策の評価

インド憲法の第244A条、第275条、および第6付則には、少数民族の地域的な自治規定が設けられている。これらの規定は、自治・独立をめぐる運動が起き、県や州など一定の形での自治が認められた地域に適用されてきた。この点について、先行研究の整理を試みると同時に、メガラヤ州もしくはアッサム州のカルビ・アングロング県、北カチャール丘陵県における自治評議会の運営と、民族紛争・運動に与えた影響を、現地調査に基づいて分析する。

課題(4)ボド領域自治県の機能と民族問題に対する具体的成果

本研究では2003年以降のボド領域自治県における自治評議会の機能を他州のものと比較すると同時に、領域自治県の発足が、従来

の土地問題や、それに起因する民族紛争の解決にどの程度貢献しているのかを、現地調査に基づいて分析する。

2. 研究の進捗状況

課題(1)

現在までに主な先行研究や運動体によるパンフレットを収集し、また運動指導者に対するインタビューを継続している。

課題(2)

民族衝突に関するフィールドワークを2010年度に行い、主な資料を収集した。継続して2011年度も調査を行う予定である。

課題(3)

2008年度にカルビ・アングロング県の自治評議会に関する聞き取り調査、文献収集を行った。

課題(4)

2010年度、民族衝突に関する調査と並行してフィールドワークを行った。2011年度は自治県評議会のメンバーや行政側に対する聞き取り調査を追加で行う予定である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

課題(1)～(4)について、概ね予定通り現地調査と資料収集が進展している。また、5.に示すように成果の中間発表も行っている。

4. 今後の研究の推進方策

①現地調査・資料収集：課題(1)～(4)に関して追加調査を進める。とくに、課題(2)と課題(4)については本年度の出張で調査を終わらせる予定である。

②中間報告：本年度、いくつかの研究会や学会にて、成果の中間発表を予定している。

③最終報告：本研究の最終的な成果報告の準備を進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①木村 真希子「「暴動」をいかにとらえるか—南アジアにおける習合的暴力論の理論的展開」『PRIME(明治学院大学国際平和研究所)』第 27 号(2008 年)109—120 頁

② Kimura, Makiko, “Conflict and Displacement: A Case Study of the Election Violence in 1983”, in *Blisters on their Feet* (2008) Samir Kumar Das ed., SAGE: New Delhi, pp.150-163

③Kimura, Makiko, “Agency of Rioters: A Study of Decision-making in the Nellie Massacre” in *Beyond Counter-insurgency* (2009) Sanjib Baruah ed., Oxford University Press: New Delhi, pp207-231.

④木村 真希子「辺境から見た国際社会学の可能性」『三田社会学』第 15 号(2010)83—87 頁

⑤木村 真希子「場所が変われば、社会学も変わる—国境を越えて社会学を学ぶということ—」

塩原良和・竹ノ下弘久編『社会学入門』弘文堂(2010) 278-284 頁

[学会発表] (計 6 件)

①木村 真希子「先住民族権利宣言採択に至る経緯とその後の動き」国際人権法学会第 20 研究大会

(2008 年 11 月 9 日、青山学院大学)

②木村 真希子「辺境から見た国際社会学の可能性」

2009 年度三田社会学会大会 (2009 年 7 月 11 日、慶應義塾大学三田キャンパス(東京都))

③木村 真希子「『ネリーの虐殺』とアッサムの反外国人運動—社会運動における集合的暴力の位置づけ—」日本南アジア学会第 22 回全国大会(2009 年 10 月 3 日、北九州市立大学(北九州市))

④ Kimura, Makiko, “ Recounting a Forgotten Massacre: Narratives of Survivors of the Nellie Incident in Assam, 1983” Colloquia on “Trauma, Memory, History” : Sponsored by the Centre for Postcolonial Studies, Goldsmiths, University of London and the Institute of Oriental Culture, The University of Tokyo (2009 年 11 月 6 日、ロンドン大学ゴールドスミス校(イギリス国ロンドン市))

⑤木村 真希子「民族紛争と森林破壊：インド・アッサム州ボド先住民族の事例より」日

本平和学会 2010 年度春季研究大会 (分科会) (2010 年 6 月 24 日、お茶の水女子大学(東京都))

⑥‘Fluid Homeland: Erosion, Displacement and Life in Char’ International Seminar on Shared Histories and Contested Spaces: Rethinking Territoriality organized by: Dibrugarh University (Assam, INDIA) and Panos South Asia (2010 年 11 月、アッサム州ディブルガル県(インド))